

事務事業マネジメントシート(平成26年度実績と平成27年度計画)

平成28年 2月17日 更新

事務事業名		男女共同参画まちづくり講座事業				□ マニフェスト 関連		□ 全庁横断 課題関連		□ 集中改革 プラン関連	
総合 計画 体系	政 策	4	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり				所属部	総務部	課長名	財津公正	
	施 策	23	人権が尊重される社会づくり				所属課	総務課	担当者名	森田健二 猿渡祥子	
	基本事業	77	男女共同参画社会に対する理解の促進				所属班	総務・男女共同参画班	(内線)	1217	
予算科目		会計 一般	款 2	項 1	目 15	事業連番 10905	法令 根拠	男女共同参画社会基本法、合志市男女共同 参画まちづくり条例			成果優先度評価結果 : ① コスト削減優先度評価結果 : ⑫
終了、開始年度		□ 26年度で終了 □ 26年度から開始					事業期間	□ 単年度のみ □ 単年度繰返 (開始年度 18 年度) □ 期間限定複数年度 (~ 年度)			

★事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】 (開始した背景・ きっかけ・今後の 状況変化を含む)	- 男女共同参画推進の一環として、市民・企業等を対象に啓発イベントを年1回実施している。 - 男女共同参画社会基本法(1999年制定)により自治体の推進義務が発生し、講座を予算化。2006年の新市施行により、統合して講座を継続実施している。 - 法律や制度上ではかなり進んできたように見えるが、現状を見ると依然として固定的役割分担意識が残っている等、課題は多い。 2007年9月に合志市男女共同参画まちづくり条例が制定され市としての責務がより重くなり、職員や市民の意識改革・啓発を進めているところである。 「男女共同参画まちづくり講座事業」「男女共同参画推進啓発誌発行事業」「男女共同参画推進研修事業」は一体化している事業であり、包括して一事業と捉えることが可能。平成27年度から本事業に「男女共同参画推進啓発誌発行事業」「男女共同参画推進研修事業」を統合し、「男女共同参画社会推進事業」とする。
【業務の流れ】	- 懇話会を開催し、その中で啓発イベントの講師等の内容を検討する。 - 市長決裁により実施を決定。 - チラシ等で参加者を募る。 - 講座の開催準備・実施・かたづけ - アンケートの集約 - 懇話会を開催し、実施結果を振り返る。
【主な予算費目】	職員手当、報償費、消耗品費、役務費、委託料
【意見や要望】 関係者(住民、議会、 事業対象者、利害関 係者等)からどんな 意見や要望が寄せ られているか?	若い世代の参画推進が必要。

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1)事務事業の目的と指標		新規・拡充区分	
①手段(主な活動) 26年度実績(26年度に行った主な活動)(DO)		27年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN)	
懇話会で啓発イベントの内容検討を行い実施した。(1/17男女共同参画気づきあふれフェスティバル参加者、600名) 市民に対して男女共同参画社会の意識付けが出来た。		前年度と同様。 平成27年度から本事業に「男女共同参画推進啓発誌発行事業」「男女共同参画推進研修事業」を統合し、「男女共同参画社会推進事業」とする。	
①活動指標(事務事業の活動量を表す指標)		(単位) 予算の主な増減の理由	
→ア	講座開催回数、27年度から県地域リーダー研修に参加した市民	回	「男女共同参画推進啓発誌発行事業」「男女共同参画推進研修事業」の統合に伴う増。
→イ	男女共同参画まちづくり講座参加者数	人	
②対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等		②対象指標(対象の大きさを表す指標)	
市民		(単位)	
→ア	市民(3月末) (平成25年度までは18歳以上)	人	
→イ			
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		③成果指標(意図の達成度を表す指標)	
・男女共同参画の重要性を認識できるようになる。 ・生活に活かしていくようになる。		(単位)	
→ア	男女共同参画の重要性を認識できたと答えた参加者数の割合	%	
→イ	生活に活かしていこうと思った人の割合	%	
*③成果指標設定の理由と27年度目標値設定の根拠			
市民の方に男女共同参画の重要性を啓発する目的なので、フェスティバルで実施したアンケートの設問の結果を成果指標とした。		総トータルコスト 全体計画 ～ 年度	
		0	

(2)各指標・総事業費 の推移		単位	24年度 実績(決算)	25年度 実績(決算)	26年度 目標(当初予算)	26年度 実績(決算)	27年度 目標(当初予算)	28年度 予定	29年度 見込	30年度 見込	
① 活動指標	ア回	2	2	2	1	2	2	2	2		
	イ人	566	830	700	400	400	400	400	400		
② 対象指標	ア人	47,443	46,099	58,785	59,067	59,200	60,100	60,900	61,500		
	イ										
③ 成果指標	ア%	55	67	87	60	65	65	65	65		
	イ%	43	45	62	48	50	50	50	50		
投資 入費 量	事業 源内 訳	国庫支出金	千円								
		都道府県支出金	千円								
		地方債	千円								
		その他	千円								
		繰入金	千円								
		一般財源	千円	132	150	139	127	859	423	423	423
	(A)事業費計	千円	132	150	139	127	859	423	423	423	
		(A)のうち指定経費	千円	5	8	0	0	0	0	0	0
		(A)のうち時間外、特勤	千円	5	8	0	0	0	0	0	0
		人件 費	正規職員従事人数	人	29	20	4	11	4	4	4
	延べ業務時間		時間	388	329	800	193	800	800	800	0
	(B)人件費計		千円	1,579	1,310	3,187	768	3,187	3,187	3,187	0
トータルコスト(A)+(B)		千円	1,711	1,460	3,326	895	4,046	3,610	3,610	423	

事務事業名	男女共同参画まちづくり講座事業	所属部	総務部	所属課	総務課
-------	-----------------	-----	-----	-----	-----

2 評価の部（SEE）

※原則は26年度的事後評価、ただし複数年度事業は26年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①26年度目標達成度評価 事務事業の当年度実績は当年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	☒ 達成した ☐ 達成しなかった ⇒【原因】
	②27年度目標達成見込み 事務事業の次年度目標値に対して次年度の見込みはついているのか？	☒ 目標達成見込みあり⇒【理由】 ☐ 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 参加者が固定化しているが、講演会の内容や講師の選定により、達成できる見込みがある。
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになってないか？	☒ 向上余地がある ⇒【理由】 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】 ①講師の選定により、内容にバラツキがある。 ②参加者が固定化、高齢者の参加が多いなど、広がりが少ない。 ③男性の参加者が少ない。等の現状がある。これらを課題として取り組みを進めることで課題を向上したい。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☒ 他に手段がある⇒（具体的な手段、事務事業） ☐ 他に手段がない ⇒【理由】 ☒ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 「男女共同参画まちづくり講座事業」「男女共同参画推進啓発誌発行业事」「男女共同参画推進研修事業」は一体化している事業であり、包括して一事業と捉えることが可能。平成27年度から本事業に「男女共同参画推進啓発誌発行业事」「男女共同参画推進研修事業」を統合し、「男女共同参画社会推進事業」とする。
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？（仕様や工法の適正化、住民の協力など）	☒ 削減余地がある ⇒【理由】 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】 講師謝金等を削減することで可能である。平成26年度は講演会を1回減らした。
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？（アウトソーシングなど）	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 必要最小限の人件費なので、削減の余地はない。 「男女共同参画まちづくり講座事業」「男女共同参画推進啓発誌発行业事」「男女共同参画推進研修事業」は一体化している事業であり、包括して一事業と捉えることが可能。平成27年度から本事業に「男女共同参画推進啓発誌発行业事」「男女共同参画推進研修事業」を統合し、「男女共同参画社会推進事業」とし、効率化を図る。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 全市民に呼びかけ、人権が尊重される社会づくりに寄与している。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化 事業事務のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行できないか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 役割分担は適正である ⇒【理由】 懇話会委員にも講座の協力（駐車場係や受付等）をボランティアでやっていただいている。また、市の責務として啓発活動を行わなければならないため適正である。

3 評価結果の総括（SEE） ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

フェスティバルで啓発活動を行ったが、高齢者の参加が多く、若い世代の参加が少ない。限られた予算の中でどう若い世代を呼び込むか課題である。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（PLAN）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可 ☐廃止 ☐休止 ☐目的再設定 ☒事業統廃合・連携 ☐事業のやり方改善（有効性改善） ☐事業のやり方改善（効率性改善） ☐事業のやり方改善（公平性改善） ☐現状維持（従来通りで特に改革改善をしない） 「男女共同参画まちづくり講座事業」「男女共同参画推進啓発誌発行业事」「男女共同参画推進研修事業」は一体化している事業であり、包括して一事業と捉えることが可能。平成27年度から本事業に「男女共同参画推進啓発誌発行业事」「男女共同参画推進研修事業」を統合し、「男女共同参画社会推進事業」とする。		(2) 改革・改善による期待成果 （廃止・休止の場合は記入不要） <table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		○																				
	低下																						
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策																							